

NEURO 2019

第42回 日本神経科学大会

The 42nd Annual Meeting of
the Japan Neuroscience Society

第62回 日本神経化学学会大会

The 62nd Annual Meeting of
the Japanese Society for Neurochemistry

飛翔する脳科学：
命と心の接点

Brain Science Takes Flight:
Bridging the Mind and Life

2019年7月25日(木) - 7月28日(日)
July 25-28, 2019

会場 朱鷺メッセ(新潟市) Venue: Toki Messe (Niigata)

第42回 日本神経科学大会 大会長

岡本 仁 (理化学研究所)

President: Hitoshi Okamoto (RIKEN)

第62回 日本神経化学学会大会 大会長

那波 宏之 (新潟大学)

President: Hiroyuki Nawa (Niigata University)

<http://www.neuro2019.jnss.org>



各種協賛案内趣意書

ご挨拶

謹啓

この度、第 42 回日本神経科学大会と第 62 回日本神経化学学会大会の合同大会を NEURO2019 と名付けて、2019 年 7 月 25 日（木）から 28 日（日）にかけて新潟朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター（新潟市）で開催する運びとなりました。日本神経科学学会と日本神経化学学会の合同大会は、2013 年の京都大会より数えて 6 年ぶりとなります。

かつてヒト脳や神経の動作原理を理解しようと日本神経科学学会は神経生理学を基盤に、神経化学学会は神経化学を基盤に両学会は数十年前に発足し、これまでそれぞれの道を歩んできました。しかし昨今、ヒト脳科学研究や基盤神経研究はおおきな広がりを見せ、生物学や医学、薬学はもとより経済学、心理学、情報工学、システム工学、教育学、化学を巻き込んで、脳科学から社会行動や経済現象のシミュレーションを行おうとしています。まさに脳科学、神経研究はボーダーレス化しています。このようなときに、多角的、学際的な学問の融合を目指して本合同大会 NEURO2019 を企画しました。

脳を構成する神経細胞・グリア細胞の分子操作技術、神経回路の操作技術、ヒト脳活動の可視化技術、計算論的脳科学などの飛躍的発展によって、現代の脳科学では神経系細胞の集合体が「こころ」の様々な諸機能をどのようにして生み出すのかを理解すること、また、病態としての神経・精神疾患の原因を究明し治療法を探ることが可能となってきました。このように人類が脳の働きを根本的に解明できる素地が整ったことを踏まえて、世界では脳研究を飛躍的に進展させるための脳科学推進政策が取られています。

このように神経科学や神経化学研究の展開がグローバル化している情勢の中で、NEURO2019 では、日本神経科学学会と日本神経化学学会が協力して本合同大会を組織し、将来の更なる「飛翔する脳科学：命と心の接点」というスローガンを掲げて、脳科学の現在の最前線を俯瞰した上で、将来への展望を議論できる場所を提供したいと考えています。そのため、NEURO2019 では、従来の外国人研究者のプレナリー講演、国内の著名研究者の特別講演、臨床連携プログラムに加え、若手の育成を重点事項と捕らえ、口頭発表枠の拡充、加えて教育セミナー、若手道場を計画し、初心者から大学院生や研究員にいたるまで、基礎知識から先端領域への幅広い学びと討論の機会を設定します。

つきましてはこの NEURO2019 に対し、貴社のご協力、ご賛同を頂戴したく、下記のようにご案内申し上げます。是非とも、多数のご応募を心よりお待ちいたしております。末筆になりましたが、貴社のますますのご繁栄とご発展のお祈り申し上げます。

謹白

第 42 回日本神経科学大会
大会長 岡本 仁

第 62 回日本神経化学学会大会
大会長 那波 宏之

■開催概要

- 名称 和文名 第 42 回日本神経科学大会 第 62 回日本神経化学大会 合同大会
英文名 Neuro2019
- 大会テーマ 飛翔する脳科学：命と心の接点
(Brain Science Takes Flight : Bridging the Mind and Life)
- 会期 2019 年 (平成 31 年) 7 月 25 日 (木) ~28 日 (日)
※ただし 4 日目 (7 月 28 日) は 13:30 までの予定となっております。
教育講演、シンポジウム、一般口演が予定されており、ポスター発表、附設展示会、ラン
チョンセミナーは行いません。
- 会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

○開催の目的と意義

脳を構成する神経細胞・グリア細胞の分子操作技術、神経回路の操作技術、ヒト脳活動の可視化技術、計算論的脳科学などの飛躍的発展によって、現代の脳科学では神経系細胞の集合体が「こころ」の様々な諸機能をどのようにして生み出すのかを理解すること、また、病態としての神経・精神疾患の原因を究明し治療法を探ることが可能となってきました。このように人類が脳の働きを根本的に解明できる素地が整ったことを踏まえて、世界では脳研究を飛躍的に進展させるための脳科学推進政策が取られています。

このように神経科学や神経化学研究の展開がグローバル化している情勢の中で、日本神経科学会と日本神経化学会が協力して本合同大会を組織し、旧来の枠を越えた神経科学と神経化学研究の「飛翔」躍進を目指します。この目標に向けて、多分野にわたる世界トップクラスの研究者によるプレナリーレクチャーと特別講演、シンポジウムや教育講演を開催し、参加者の最新知識と先端技術の拡充、分野間の交流の場を提供します。特に若手研究者や脳科学入門者の「知識、技術、交流」のレベルアップを目的として、朝早くから夜遅くまで多彩な企画を盛り込んでいます。

○開催計画の概要

- ・プレナリーレクチャー
- ・特別講演
- ・シンポジウム
- ・教育講演
- ・受賞記念講演
- ・一般口演・ポスター発表
- ・ランチョンセミナー
- ・機器 試薬 書籍 等展示会

- 予定参加者数 約 3,000 名

■大会組織

大会長

岡本 仁 理化学研究所 脳神経科学研究センター 意思決定回路動態研究チーム
那波 宏之 新潟大学 脳研究所 分子神経生物学分野

実行委員長

上口 裕之 理化学研究所 脳神経科学研究センター 神経細胞動態研究チーム
武井 延之 新潟大学 脳研究所 分子神経生物学分野

実行委員

五十嵐 道弘 新潟大学
池田 和隆 東京都医学総合研究所
小泉 修一 山梨大学
竹林 浩秀 新潟大学
豊泉 太郎 理化学研究所 脳科学総合研究センター
花嶋 かりな 早稲田大学教育・総合科学学術院
松元 健二 玉川大学 脳科学研究所
南 雅文 北海道大学大学院薬学研究院

プログラム委員長

吉原 良浩 理化学研究所 脳神経科学研究センター システム分子行動学研究チーム
橋本 均 大阪大学大学院薬学研究科 神経薬理学分野

プログラム委員

天野 睦紀 名古屋大学大学院医学系研究科
天野 薫 情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター
天野 大樹 北海道大学大学院薬学研究院
有賀 純 長崎大学生命医科学域
井口 善生 福島県立医科大学
磯田 昌岐 自然科学研究機構生理学研究所
磯村 宜和 玉川大学脳科学研究所
糸原 重美 理化学研究所脳科学総合研究センター
井ノ口 馨 富山大学大学院医学薬学研究部
今井 猛 九州大学大学院医学研究院
岩里 琢治 国立遺伝学研究所
岩田 修永 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
漆谷 真 滋賀医科大学医学部
生沼 泉 兵庫県立大学生命理学研究科
大木 研一 東京大学大学院医学系研究科
大須 理英子 早稲田大学人間科学学術院
大塚 稔久 山梨大学大学院総合研究部
岡 良隆 東京大学大学院理学系研究科
小川 園子 筑波大学
小口 峰樹 玉川大学脳科学研究所
奥野 浩行 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
尾上 浩隆 京都大学医学研究科附属 脳機能総合研究センター
加藤 忠史 理化学研究所脳科学総合研究センター
上川内 あづさ 名古屋大学大学院理学研究科
川内 健史 先端医療振興財団先端医療センター研究所
菊水 健史 麻布大学獣医学部
喜田 聡 東京農業大学生命科学部
北野 勝則 立命館大学情報理工学部
喜多村 和郎 山梨大学医学部
久場 博司 名古屋大学大学院医学系研究科

小池 康晴	東京工業大学
合田 裕紀子	理化学研究所 脳神経科学研究センター
後藤 由季子	東京大学大学院薬学系研究科
齊藤 実	東京都医学総合研究所
酒井 宏	筑波大学システム情報工学研究科
櫻井 武	京都大学大学院医学研究科
佐藤 真	大阪大学大学院医学系研究科・連合小児発達学研究科
澤本 和延	名古屋市立大学大学院医学研究科
渋谷 克栄	新潟大学脳研究所
下郡 智美	理化学研究所 脳神経科学研究センター
杉山(矢崎)陽子	沖縄科学技術大学院大学
須原 哲也	量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
関 和彦	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所
宋 文杰	熊本大学大学院生命科学研究部
征矢 英昭	筑波大学体育系
高橋 琢哉	横浜市立大学大学院医学研究科
高橋 晋	同志社大学大学院脳科学研究科
内匠 透	理化学研究所 脳神経科学研究センター
竹居 光太郎	横浜市立大学大学院生命医科学研究科
竹内 英之	横浜市立大学医学部
竹本 さやか	名古屋大学環境医学研究所
田中 真樹	北海道大学大学院医学研究科
田中 沙織	株式会社国際電気通信基礎技術研究所
津田 誠	九州大学大学院薬学研究院
照沼 美穂	新潟大学大学院医歯学総合研究科
富田 博秋	東北大学災害科学国際研究所
中島 欽一	九州大学大学院医学研究院
中村 克樹	京都大学霊長類研究所
鍋倉 淳一	自然科学研究機構生理学研究所
西村 幸男	東京都医学総合研究所
野村 真	京都府立医科大学
橋本 亮太	大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター
花川 隆	国立精神・神経医療研究センター
花島 律子	鳥取大学医学部
馬場 広子	東京薬科大学薬学部
林(高木)朗子	群馬大学生体調節研究所
林 康紀	京都大学医学研究科
日置 寛之	順天堂大学医学部
久永 眞市	首都大学東京理学研究科
尾藤 晴彦	東京大学大学院医学系研究科
平瀬 肇	理化学研究所 脳神経科学研究センター
深井 朋樹	理化学研究所脳科学総合研究センター
藤澤 茂義	理化学研究所 脳神経科学研究センター
藤田 一郎	大阪大学大学院生命機能研究科
藤山 文乃	同志社大学大学院脳科学研究科
船橋 利也	聖マリアンナ医科大学
古市 貞一	東京理科大学理工学部
古江 秀昌	兵庫医科大学
馬塚 れい子	理化学研究所 脳神経科学研究センター
松尾 直毅	大阪大学大学院医学系研究科
松崎 政紀	東京大学大学院医学系研究科
松下 正之	琉球大学大学院医学研究科
三浦 正幸	東京大学大学院薬学系研究科
三村 将	慶應義塾大学医学部

宮川 剛	藤田保健衛生大学総合医科学研究所
宮道 和成	理化学研究所 生命機能科学研究センター
村山 正宜	理化学研究所 脳神経科学研究センター
森 郁恵	名古屋大学大学院理学研究科
森田 賢治	東京大学大学院教育学研究科
山末 英典	浜松医科大学医学部
山中 宏二	名古屋大学環境医学研究所
山本 巨彦	大阪大学大学院生命機能研究科
吉峰 俊樹	大阪大学国際医工情報センター
吉村 由美子	自然科学研究機構生理学研究所
里宇 明元	慶應義塾大学医学部
渡辺 雅彦	北海道大学大学院医学研究院
渡部 文子	東京慈恵会医科大学総合医科学研究所-臨床医学研究所

組織委員

井上 和秀	九州大学大学院薬学研究院
岩坪 威	東京大学大学院医学系研究科
大隅 典子	東北大学大学院医学系研究科
岡野 栄之	慶應義塾大学医学部
岡部 繁男	東京大学大学院医学系研究科
笠井 清登	東京大学大学院医学系研究科
川人 光男	(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所
高橋 良輔	京都大学大学院医学研究科
鍋島 俊隆	藤田保健衛生大学大学院医療科
東田 陽博	金沢大学子どものこころの発達研究センター
樋口 輝彦	国立精神・神経医療研究センター / 日本うつ病センター
廣川 信隆	東京大学大学院医学系研究科
本間 さと	北海道大学脳科学研究教育センター/慶愛会札幌花園病院睡眠医療センター
御子柴 克彦	理化学研究所 脳神経科学研究センター ※
水澤 英洋	国立精神・神経医療研究センター
宮下 保司	理化学研究所 脳神経科学研究センター

※組織委員長

(2018年6月現在 五十音順)

○収支予算案（2018年7月時点）

収入の部		
項目	金額	備考
1. 参加費	38,930,000 円	2860 名, 懇親会参加費含む
2. セミナー共催費	8,856,000 円	7 件
3. パッケージスポンサー協賛費	6,240,000 円	3 社
4. 企業展示出展料	23,058,000 円	100 小間
5. 広告収入：HP バナー広告	432,000 円	2 社
広告収入：プログラム集広告	1,512,000 円	11 社
6. 寄付金	21,000,000 円	新潟県や各種財団等の補助金を含む
7. 学会貸付金	3,000,000 円	
合計	103,028,000 円	

支出の部		
項目	金額	備考
1. 会議準備費	25,130,967 円	
1) 人件費	9,535,000 円	
2) IT 制作費	4,825,200 円	HP・演題・参加登録システム含む
3) 印刷・製作費	9,140,135 円	翻訳費用を含む
4) 通信・運搬費	1,630,632 円	
2. 会議当日費	68,703,790 円	
1) 会場費	17,570,557 円	
2) 機材・備品費	24,137,661 円	
3) 人件費	9,458,100 円	
4) 招聘費	7,070,535 円	
5) 会議費	8,081,780 円	
6) 運営諸経費	2,385,157 円	
3. 事後処理費	5,612,490 円	
4. 予備費	3,580,753 円	
合計	103,028,000 円	

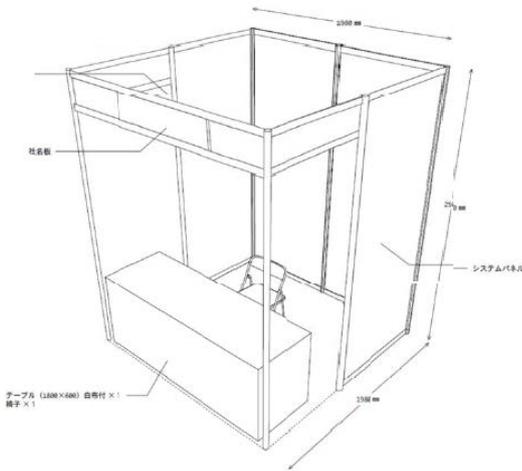
展示会 出展

募集ご案内

- 申込・問合せ先 Neuro2019 展示会事務局（株式会社エー・イー企画内）
担当：岩村 越史・北島 創一郎
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4F
E-mail: e_neuro2019@aeplan.co.jp
Tel:03-3230-2744
- 小間の割当て 申し込み締切後、出品物の種類・形状・重量・小間数などを考慮し、小間割りした後「出品確認書」にて出展者へ通知いたします。出展者説明会は行いませんので、ご了承ください。※グループ会社間や協力・協同会社間で、小間を隣接させたい等のご希望がある場合、申込時、申込書の「通信欄」に記載いただくなど、申込締切日までに事務局へご連絡ください。
- 展示出品台の有無 基礎小間には既設の出品台を付属しておりますが、既設出品台が不要な場合、申込書の「出品台の有無」欄に不要な小間数分（出品台数分）をご記入ください。また、基礎小間を利用せず、自社にて特別装飾を施す予定がある場合には「自社にて特別装飾を予定」欄にチェックを入れてください。
- 出品物の管理 各出品物管理は出展者が責任を持つものとし、展示期間中の出品物の盗難・紛失・火災・損傷など、不可抗力による出品物の損害に対して、補償などの責任は一切負いませんのでご了承ください。
- その他の事項 開催当日の自社小間前以外（展示会場や講演会場となる建物内外）で、チラシ・カタログ・試供品などを配布することは禁止いたします。多くの出展者が参加されますので、ご協力ください。ただし、チラシ配布に関する協賛メニューを購入いただいた場合や、その他、組織委員会で決定した場合は除きます。
- 協賛費について 出展に際する協賛費の一部は展示会場で開催するスタンプラリー等の経費（景品等）に使用いたします。抽選会では景品のご協賛もお待ちしております。ご興味ございましたら、展示会担当までご連絡ください。

●小間タイプと小間料金

◆Aタイプ 小間料金： 230,000 円（消費税別） /小間



○募集対象

医療・ライフサイエンスの研究等に必須の機器類、試薬類、ディスプレイ製品類、ソフトウェア・データベース等を含むコンピュータシステム類、受託解析等のサービス類を扱う企業/団体が対象となります。

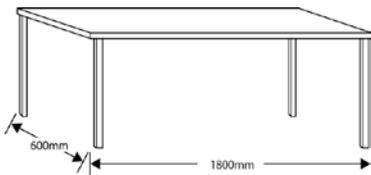
○小間サイズ： W1,980×D1,980×H2,500 (mm)

○セット内容： 出品台 (W1,800×D900×H約720 (mm)、白布付き)、社名板、蛍光灯 (FL40W)、イス1脚 (複数小間申込みの場合は異なります)

○基礎小間製作仕様は、システムパネルとなります。壁面への画鋲や釘類でのパネル・ポスター等の貼付はできません。

○展示説明員の名札は1小間につき4枚配布いたします。

◆B1タイプ 小間料金： 30,000 円（消費税別） /小間



○募集対象

関連書籍等を扱う、出版社、翻訳サービス等の企業/団体が対象となります。

○小間サイズ： W1,800×D600 (mm)

○セット内容： 出品台 (テーブル： W1,800×D600 (mm))、イス1脚

※社名板、出品台の布等は、各出展者にてご用意ください。

○展示説明員の名札は1小間につき4枚配布いたします。

◆B2タイプ 小間料金： 10,000 円（消費税別） /小間

○募集対象

関連書籍等を扱う、書店に限ります。

小間サイズ、セット内容は B1 タイプと同様となります。

◆Cタイプ 小間料金： 100,000 円（消費税別） /小間

※小間の仕様は、**Aタイプと同様**となります。

○募集対象 アカデミア関係機関を対象とし、大学や公的機関等が該当します。

○小間サイズ： W1,980×D1,980×H2,500 (mm)

○セット内容： 出品台 (W1,800×D900×H約720 (mm)、白布付き)、社名板、蛍光灯 (FL40W)、イス1脚 (複数小間申込みの場合は異なります)

○基礎小間製作仕様は、システムパネルとなります。壁面への画鋲や釘類でのパネル・ポスター等の貼付はできません。

○展示説明員の名札は1小間につき4枚配布いたします。

◆各タイプ共に電力を使用する場合は、別途申込みが必要となります。

電力を必要とする場合、オンライン出展申込時にあわせてお申込みください。

電源仮設工事費および消費電力料金は出展者の負担となります。